

目 次

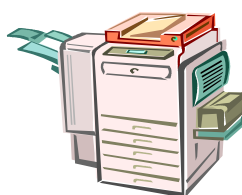
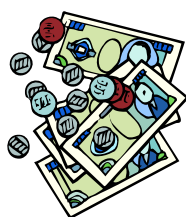
第1章 簿記の基礎知識	1
1-1 簿記とは.....	1
1-2 簿記の種類.....	1
1-3 簿記の目的.....	2
1-4 簿記の流れ.....	4
第2章 勘定科目	7
2-1 勘定科目とは.....	7
2-2 勘定科目のグループ分け.....	8
第3章 資産・負債・純資産と貸借対照表	9
3-1 資産とは.....	9
3-2 負債とは.....	9
3-3 純資産とは.....	9
3-4 貸借対照表とは.....	10
3-5 貸借対照表の計算式.....	11
3-6 練習問題（資産・負債・純資産）	12
第4章 収益・費用と損益計算書	13
4-1 収益とは.....	13
4-2 費用とは.....	13
4-3 損益計算書とは.....	14
4-4 損益計算書の計算式.....	15
4-5 練習問題（収益・費用）	16
第5章 取引・仕訳	17
5-1 勘定科目記入のルール.....	17
5-2 練習問題（取引の要素）	22
5-3 仕訳.....	23
5-4 練習問題（仕訳）	26

第6章 総勘定元帳と転記	28
6-1 総勘定元帳とは.....	28
6-2 転記.....	29
6-3 練習問題（転記）	31
第7章 試算表の作成	32
7-1 試算表とは.....	32
7-2 試算表の作成.....	33
7-3 練習問題（試算表）	36
第8章 財務諸表（決算書）の作成	37
8-1 財務諸表とは.....	37
8-2 財務諸表（貸借対照表・損益計算書）の作成.....	39
8-3 貸借対照表と損益計算書の関係.....	41
8-4 練習問題（財務諸表）	42
第9章 消費税の基礎知識	43
9-1 基準期間.....	43
9-2 課税事業者と免税事業者.....	43
9-3 本則課税と簡易課税.....	43
9-4 簡易課税とは.....	44
9-5 本則課税とは.....	45
9-6 練習問題（消費税の課税対象）	51
第10章 仕訳練習問題	52
10-1 基礎仕訳練習問題.....	52
10-2 消費税を考慮した仕訳練習問題.....	55
第11章 【参考資料】 減価償却資産	60
第12章 練習問題解答	61

第1章 簿記の基礎知識

1-1 簿記とは

企業における金銭の収支や物品の購入、商品の仕入れ・販売などの経済活動を記録・計算・整理して、経営成績や財政状態を明らかにする技術です。



1-2 簿記の種類

簿記は、次の2つに大きく分類できます。

単式簿記……現金の入出金を基準にして取引を記帳する方法
(例：おこづかい帳、家計簿)

複式簿記……「現金が増えた」→「それは商品を売り上げたから」の
ように原因と結果の両面から記帳する方法

複式簿記で記帳すれば、税制面での優遇が受けられるメリットもあります。(青色申告特別控除など)

ぜひ、このテキストで複式簿記をマスターしましょう。

1-3 簿記の目的

簿記には、次のような目的があります。

- ① 企業活動を期間別に区切って、一定時点（一般的に**期末**）における企業の**財政状態**を明らかにする。

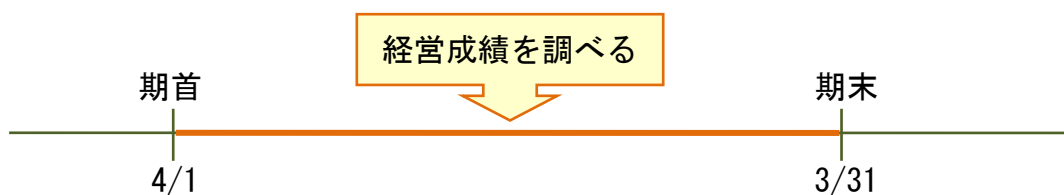


期 首 . . . 期間別に区切った初日（個人の場合は 1 月 1 日）
期 末 . . . 期間別に区切った最終日（個人の場合は 12 月 31 日）
財政状態 . . . 一定時点において、どれくらいの財産、または借金があるかを調べ、その結果、純粋な財産はどれくらいあるかを示します。

財政状態は、後述する「**貸借対照表**」という表であらわします。

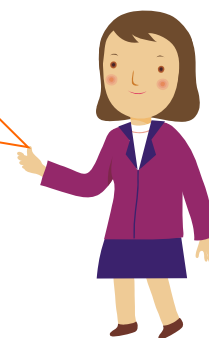


② 一定期間における**経営成績**を明らかにする。



- 一定期間 . . . 一般的に 1 年間
 (個人：1/1～12/31 法人：期首日は任意に設定)
- 経営成績 . . . 一定期間でどれくらいの儲けがあり、それを得るため
 ・ にどれくらいの経費が掛かり、その結果、純粋な利益
 ・ がどれだけ得られたかを示します。

経営成績は、後述する「**損益計算書**」という表で表します。



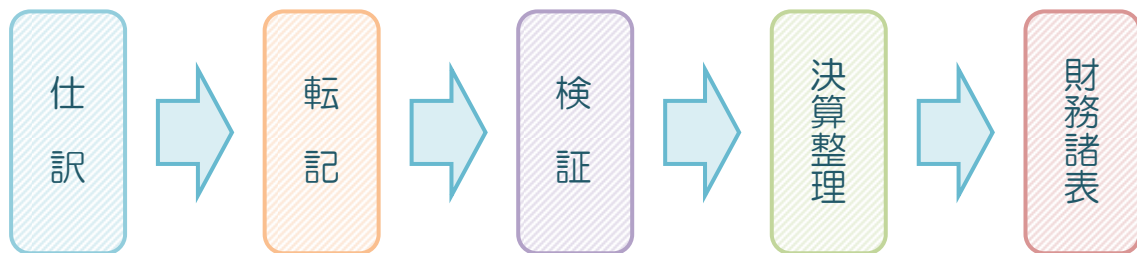
上記①～②の他に、「経済活動の記録」、「財産の保全」、「経営管理・経営改善の指標」などの目的もあります。

ここまでを、まとめると次のようになります。

簿記の目的とは	①財政状態を調べる ←	貸借対照表で表す
	②経営成績を調べる ←	損益計算書で表す

1-4 簿記の流れ

簿記の大まかな流れは、次のとおりです。



各項目のイメージをつかむために、もう少し具体的に見ていきましょう。

仕 訳

記帳すべき取引が生じたら、勘定科目と金額を用いて振替伝票に記入します。

振 替 伝 票		No. 1		
平成〇年 4 月 1 日				
借方金額	借方科目	摘 要	貸方科目	貸方金額
10,000	仕 入	A商店より	現 金	10,000
10,000	合 計			10,000



転記

振替伝票の内容を総勘定元帳などへ転記します。

総勘定元帳					
現金			1		
日付	摘要	借方	日付	摘要	貸方
			4/1	仕入	10,000

仕入			7		
日付	摘要	借方	日付	摘要	貸方
4/1	現金	10,000			



検証

総勘定元帳への転記が正しく行われているかどうかを確認するために、試算表を作成します。

合計残高試算表				
平成〇年〇月〇日				
借方		勘定科目	貸方	
残高	合計		合計	残高
1,451,000	2,100,000	現金	649,000	
260,000	320,000	売掛金	60,000	

8,000	8,000	雑費		
2,460,000	3,369,000		3,369,000	2,460,000



決算整理

期末の試算表をもとに、決算整理仕訳を行います。



財務諸表の作成

貸借対照表や損益計算書等を作成します。

貸借対照表

△△商会		平成○年 3 月 31 日	
資産の部	金額	負債・純資産の部	金額
現金	1,451,000	買掛金	323,000
売掛金	260,000	資本金	1,500,000
商品	200,000	当期純利益	88,000
	1,911,000		1,911,000

損益計算書

△△商会 平成○年 4 月 1 日～平成○年 3 月 31 日


費用の部	金額	収益の部	金額
売上原価	2,700,000	売上高	3,000,000
給料	204,000		
雑費	8,000		
当期純利益	88,000		
	3,000,000		3,000,000

第2章 勘定科目

2-1 勘定科目とは

「勘定科目」とは、簿記の世界で共通して使われる取引の要素を表す項目です。記帳する際には、この勘定科目と金額を用いて記入します。

例：1,000万円の店舗1棟を購入した。



↓

店舗を示す勘定科目は「建物」です。
(他に、工場・倉庫・事務所なども「建物」に該当します)

↓

建物	10,000,000
----	------------

と記帳します。

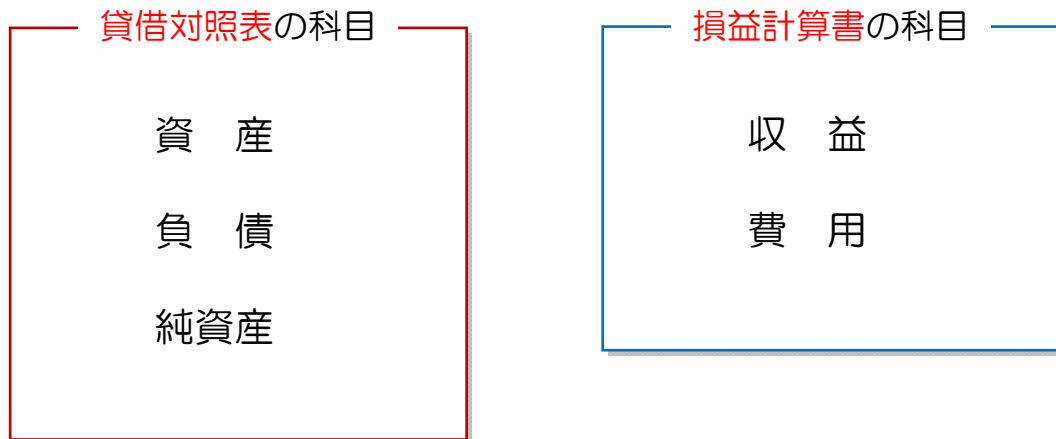
勘定科目の数は非常に多いので、次項のようにグループ分けして覚えましょう。

2-2 勘定科目のグループ分け

勘定科目は、「資産」、「負債」、「純資産」、「収益」、「費用」の5つのグループに分けることができます。

(前ページの勘定科目「建物」は、「資産」に属します。)

さらに、その5つのグループは、次のように分けることができます。



それぞれ、次の章からグループごとに詳しく見ていきます。

第3章 資産・負債・純資産と貸借対照表

3-1 資産とは

「資産」に属する勘定科目には、次のようなものがあります。

- ① 現 金
- ② 普通預金
- ③ 売掛金…… 商品を販売して、まだ受領していない代金
- ④ 商 品…… 販売目的で保有している物品
- ⑤ 建 物…… 店舗、倉庫、事務所など
- ⑥ 車 両…… 営業用自動車（車両運搬具と同じ）

3-2 負債とは

「負債」に属する勘定科目には、次のようなものがあります。

- ① 買掛金…… 商品を購入して、まだ支払っていない代金
- ② 未払金…… 商品以外のもの（例：消耗品）を購入したり、
役務の提供（例：修繕）を受け、まだ支払っていない代金
- ③ 借入金…… 銀行等から金銭を借り入れ、後日返済する義務

3-3 純資産とは

「純資産」に属する勘定科目には、次のようなものがあります。

- ① 資本金…… 株主の出資額（個人の場合は元入金）

3-4 貸借対照表とは

資産・負債・純資産に属する科目を集めた表を**貸借対照表**といい、期首や期末における財政状態が明らかになります。

資産の部	負債の部
現金 普通預金 売掛金 商品 建物 車両 など	買掛金 未払金 借入金 など
	純資産の部
	資本金 など

なお、簿記には、次の重要なルールがあります。

- 「資産」は左側、「負債」と「純資産」は右側に示す

このルールは、貸借対照表にも共通します。
上図で確認しておきましょう。